

平成 28 年度 豊中市 バリアフリー 推進 協議会 議事録 概要版

日 時：平成 28 年 9 月 2 日（金）10:00～12:00

場 所：豊中市立福祉会館 3 階 集会室・出席者：39 名

1. 資料説明

「各部門のバリアフリー化」、「その他のバリアフリー事業」の説明を行った。

2. 主な意見等

委) 近視なのでスクリーンが見つらい。

事) スクリーンを使って説明するか、使わないで全部資料で説明するか明確にしたい。使うのならばもう少し見やすい工夫など検討する。

委) 国道 176 号の曾根から岡町辺りの点字ブロックが歪んでおり、使えない。

事) 場所の詳細を確認し、対応する。

委) ノンステップバスで、現状の手動ベルトでは車いすをうまく固定できない場合がある。リトラクター（自動巻き取り）型の導入を検討してほしい。

事) 国が定める車両の認定基準が昨年新しいものに変わり、固定用ベルトの使い勝手も改良が進んでいる。

委) 新しくオープンする文化芸術センターの障害者用設備が十分でない。計画段階から障害当事者が意見を述べられる仕組みが必要ではないか。

事) 本日は文化芸術センターについて詳細が分かる者がいないため、また検討させていただく。

委) 公園の入り口に車止めが設置されることが多くなっているが、車いすが通行できない。

事) 自転車・バイクへの対策と折り合いをつける必要がある。場所ごとに利用者の状況を見ながら意見を聞くことが重要と考える。

委) 可動式ホーム柵が全ての駅に導入されることを期待している。

事) 北大阪急行は、来年度中に 3 駅に設置したいと考えている。費用面が課題であるため、国・大阪府・豊中市の協力をお願いしたい。

委) 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、IPC がアクセシビリティガイドを発表した。これをきっかけに人々の意識が変わっていくことが期待される。皆さんにも読んでいただきたい。

ア) 現在、国際オリンピック委員会のバリアフリー基準である IPC 基準に基づき、日本における条件を考慮した日本基準がおおよそ作成できたところである。さらにそれを踏まえて個々の具体的な設計基準をつくる。日本基準と個々の設計基準はまだ公表されておらず、おおよその骨子ができた段階である。

委) 交通弱者のためにバリアを周知する看板のとりつけを市に行ってほしい。

事) 昨年度指摘を頂いた中央環状線の村町橋、少路付近については大阪府と協議中である。他の地点についても調査を進めており、前向きに進めていきたい。

ア) ハード面の整備だけでは、高齢者・障害者の手助けを十分にできない。国でも心のバリアフリーの推進に取り組んでいる。市においてもボランティア教室の開催などの取り組みをお願いしたい。

委) 線路に二回転落した人の事例を聞き、ホーム柵の必要性を感じた。地下鉄は来年着工とのことだが、阪急電鉄も検討願いたい。

事) 実現のため、検討会や勉強会を社内で進めている。

ア) 庁内施設の整備についても、バリアフリーチェックシステムの応用を検討してもよいのではないか。

ア) 災害が多発する中で、これまでのバリアフリー整備を防災の視点でも活用していくことを検討してい

けばよいのではないか。